

長野県飯田市における協働のまちづくり

— いいだ人形劇フェスタを事例にして —

Collaborative community development in Iida city, Nagano

— A case of Iida Puppet Fiesta —

太田 清澄・高橋 泰明・大久保綾華

札幌学院大学、法政大学、高知工科大学、沖縄大学の4大学では、戦略的大学連携「まちづくりリスト」育成プログラムの一環として、「まちづくりインターンシップ」を実施している。平成23年度は4つの地域で「まちづくりインターンシップ」が実施された。本論文ではその1つとして長野県飯田市で実施された「まちづくりインターンシップ」における自らの実践的活動に基づいて、「飯田市の協働のまちづくり」における問題のうち、「いいだ人形劇フェスタ」をケーススタディとして、「飯田市の協働のまちづくり」の課題の解決策について検証する。

1. はじめに

札幌学院大学、法政大学、高知工科大学、沖縄大学の4大学では、平成22年度より戦略的大学連携「まちづくりリスト」育成プログラムの一環として、「まちづくりインターンシップ」を実施している。平成23年度は北海道浜中町(霧多布湿原)、長野県飯田市、高知県梶原町、沖縄県渡名喜島の4つの地域で実施された。長野県飯田市での「まちづくりインターンシップ」には4大学の学生6名、教員2名が参加し、平成23年8月28日～9月2日に実施された(表1参照)。

長野県飯田市で実施された「まちづくりインターンシップ」のテーマは、「飯田市の協働のまちづくりの現場にふれ、飯田市に対してテーマを絞って提言する」ことである。日程のうち、前半は飯田市が主催する「南信州・

いいだフィールドスタディ2011」に参加(7大学23名)し、観光・文化・生活・産業・環境といった様々な協働のまちづくりの現場の担い手に話を聞き、地元の農産品加工を体験することを通じて、その現場に触れた。後半は「南信州・いいだフィールドスタディ2011」の経験を踏まえて、「飯田市の協働のまちづくり」における成果や現状の問題点を探り、今後取り組むべき課題とその解決策を検討するためのフィールドワークを実施した。

このフィールドワークを行うにおいて、「飯田市の協働のまちづくり」の核である取り組みである「いいだ人形劇フェスタ」をフィールドとして取り上げた。本論文では、「まちづくりインターンシップ」における自らの実践的活動に基づいて、いいだ人形劇フェスタの課題を明示し、その解決策を検討した上で、その可能性と実現に至る具体的方策を検証することにより、「飯田市の協働のまちづくり」の課題となっている隘路を切り開くことに資

OHTA Kiyozumi 札幌学院大学社会情報学部
TAKAHASHI Yasuaki 札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科
OKUBO Ayaka 法政大学キャリアデザイン学部

表1 まちづくりインターンシップ日程

日程	実施内容	実施場所
日程前半：南信州・飯田フィールドスタディ2011		
8/28 (日)	オリエンテーション	飯田市役所
	講義：文化経済自立都市への挑戦 (講師：飯田市長 牧野光郎氏)	
	学生間交流	
	農家民泊：農家との交流・ヒアリング	農家
8/29 (月)	講義：都市と農村の関係Ⅰ ワーキングホリデーについて (講師：ごんべえ邑 川手洋造氏)	ごんべえ邑
	講義：地域経済活性化プログラムと人材誘導のダイナミズム (講師：飯田市結いターンキャリアデザイン室)	
	農産品加工演習Ⅰ 五平餅づくり体験 (指導：ごんべえ邑スタッフ)	
	講義：時空をこえてつながってきた人形劇のまち飯田 ——「いいだ人形劇フェスタ」の来た道・往く道—— (講師：いいだ人形劇フェスタ実行委員長 高松和子氏)	飯田市公民館
	講義：環境政策 地域ぐるみ環境 ISO 研究会の取組 (講師：地域ぐるみ環境 ISO 研究会事務局長 沢柳俊之氏)	
	講義：おひさま進歩エネルギー(株) (講師：おひさま進歩エネルギー(株)社長 原亮弘氏)	
	事例調査：中心市街地活性化 りんご並木・市街地再開発・裏界線・川本喜八郎 人形美術博物館見学等 (案内：商業・市街地活性化課 飯田まちづくりカンパニー)	中心市街地
	講義：まちづくりの新しいカタチ 市街地・文化活動…音楽パフォーマンス (講師：IIDAWAVE ヘッドプロデューサー, SBC ラジオパーソナリティー 桑原利彦氏)	CANVAS
8/30 (火)	講義：地域自治と公民館活動 (講師：ひさかた風土舎 長谷部三弘氏)	天龍峡温泉交流館
	講義：都市と農村の関係Ⅱ 体験教育旅行について (講師：農業法人 今田平 大平盛男氏)	農業法人 今田平
	農産品加工演習Ⅱ そば打ち体験 (指導：南信州飯田そば達人の会 仁科保氏)	天竜峡活性化センター あざれあ
	事例調査：観光資源 名勝天龍峡・百年再生館とご案内人の取組 (案内：天龍峡 ご案内人)	天龍峡エリア散策
	南信州・飯田フィールドスタディ 総括 (レポート発表「飯田市への提言」へ向けての準備)	宿舎
8/31 (水)	レポート発表：飯田市への提言 ※発表・意見交換 15分×5グループ(観光・文化・生活・産業・環境)	飯田市保健センター
4大学連携まちづくりインターンシップ 独自プログラム		
	南信州・飯田フィールドスタディ 総括 調査対象・内容・予定の検討	飯田市役所, 宿舎
9/1 (木)	飯田市職員との意見交換	飯田市役所
	公民館へのフィールドワーク(3人×2グループ) (公民館主事・職員への聞き取り調査)	飯田市公民館橋南 公民館
	プラネタリウム鑑賞：菱田春草 没後百年記念特別展 春草晩年の探求 ——日本美術院と装飾美——	飯田市美術博物館
	飯田市長, 飯田市職員との意見交換	中心市街地
9/2 (金)	まちづくりインターンシップ ふりかえり	飯田市役所
	中心市街地散策	中心市街地

していきたい。

2. 「飯田市の協働のまちづくり」のコンセプト

2-1 飯田市の概要

長野県飯田市は、長野県最南端（南信州）の都市であり、東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえ、南北に天竜川が貫く谷地形に位置する。人口（平成23年7月末現在）は10万4822人、面積は659km²（森林面積は全市域の84.6%）、産業別就業人口（平成17年）は第1次産業 6415人、第2次産業 1万9682人、第3次産業 3万1490人である。

表2 飯田市産業別就業人口（平成17年）

第1次産業 (6415人)	農業	6309人
	林業	74人
	漁業	32人
第2次産業 (1万9682人)	鉱業	17人
	建設業	5706人
	製造業	1万3959人
第3次産業 (3万1490人)	卸売・小売業	9068人
	医療・福祉	5436人

（出所）平成22年版 飯田市統計資料

「飯田」の地名の由来は「結いの田」（共同労働の田）であるといわれており、養蚕や水引などの伝統産業により発展してきた。現在はハイテク産業、食品産業、農業（果物が中心）が盛んであり、五平餅、信州蕎麦、水引、おたぐりなどが名産である。また、飯田市は「りんご並木と人形劇のまち」としても知られており、近年では教育体験旅行や、グリーンツーリズム・エコツーリズムの取り組みなども全国から注目されている。

2-2 「ムトスの精神」と「結の力」

飯田市では、「ムトスの精神」と「結いの力」により、人のつながりやさまざまな主体間の協働を大切にしている「協働のまちづくり」が行われている。「飯田市の協働のまちづくり」には、行政のみならず、「飯田市の協働の

表3 飯田市の主要産業

ハイテク産業	精密機械、電子、光学
食品産業	半生菓子、漬け物、味噌、酒など
農業	市田柿、りんご、梨など

（出所）飯田市役所



図1 長野県飯田市の位置

（出所）MapFan Web

まちづくり」に関わりのある市民や地域組織、企業、団体などの多様な主体との協働が不可欠であり、まちづくりの現場でさまざまな担い手が活躍し、協力し合っている。

「ムトス」とは、広辞苑の最末尾の言葉「んとす」を引用したもので「…しようとする」という意味が込められており、行動への意志や意欲を表す言葉であると説明されている。飯田市では「ムトス」を地域づくりの合言葉にし、一人ひとりの心の中にある、「愛する地域を想い、自分ができることからやってみよう」とする自発的な意思や意欲、具体的な行動による地域づくりを目指している。「結い」とは、「多くの人の協力と役割分担により一つのことを成し遂げる仕組み」のことであり、今日の協働そのものである。

2-3 飯田市の目指す都市像

平成8年策定の第4次基本構想・基本計画において、飯田市の目指す都市像を「環境文化都市」としており、平成19年3月23日には更に今後20～30年という長期を見通して実現する都市像として新たに「環境文化都市宣言」を行った。平成21年1月23日には、国全体を低炭素社会に転換していくために、温室効果ガスの大幅削減など高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジするモデル都市である「環境モデル都市」として政府から選定された。

飯田市が「環境モデル都市」にチャレンジしたのは、「環境モデル都市」の認定が、長期的に目指す都市像として掲げる「環境文化都市」を達成するための大きな力となるものと考えたためである。「環境文化都市」を目指す都市像とした飯田市では、低炭素で活力あふれる地域づくり、地球環境問題へ対応するために、

①主体の広がり

市民、産業界が協働することにより行政の枠を超える

②地域の広がり

民間が主体となることで他地域のモデルになり得る

③政策の広がり

総合的アプローチにより政策の付加価値を高める

といった「多様な主体の協働」による広がり」を地域政策とした。さらに平成19年策定の第5次基本構想・基本計画において、「文化経済自立都市」を目指す都市像としている。「文化経済自立都市」とは、「いつの時代も、素晴らしい環境の下で、市民一人ひとりがそれぞれに生き活きと輝き続けることができるまち」を実現させることである。

2-4 「飯田市の協働のまちづくり」の取り組み

「文化経済自立都市」では、持続可能な地域づくりのために、若い人達が一度は外に出ても、いずれは飯田に戻り、子育てをし、次世代を育んでもらえるような長期的な人々の営みができることが重要と考え、「人材サイクル」の構築が進められている。この「人材サイクル」は、

①帰ってこられる「産業づくり」

②帰ってきたいと考える「人づくり」

③住み続けたいと感じる「地域づくり」

を推進することで実現可能になると位置付けている。

その実現のために、地域経済活性化プログラムにより、産業連携の深化と地域産業の持続的成長への支援を行っている。地域経済活性化プログラムとは、地域の経済自立度を70%にするために産業界、市民、経済団体、行政が地域ぐるみで実施する事業を具体的に明示したものである。この地域経済活性化プログラムは、PDCAサイクルに基づき、現場主義の徹底により現場の改善から生み出される効果的な施策を立案、実施し、産業界、市民を交えた評価、点検を行い、毎年プログラムを見直している。「地域経済活性化プログラム2011」では、

①未来を見据えた地域産業の持続的成長への支援

②異産業の新しい組合せによる産業創造の促進

③地域産業の未来を担う専門技術・技術者の育成

④地域経済の循環の促進

⑤地域交通環境の変化を見据えた産業づくり

の5つの視点をもとに、

①地域産業育成基盤の整備

・企業支援体制の強化

・起業支援の充実

- ・雇用対策の強化
- ②人材誘導・人づくり・大学連携
 - ・総合人材誘導窓口の充実
 - ・大学・研究機関連携強化
 - ・新規高卒者等の人材育成
 - ・次世代育成プロジェクト
- ③産業連携による地域資源の活用・創出
 - ・産業連携による市田柿の振興
 - ・地域製品のマーケティング・チャレンジ
 - ・域産域消（商）の推進
- ④地域産業ストックのパワーアップ
 - ・光る農村づくり
 - ・技・巧みの伝承・新分野開拓
 - ・暮らしのツーリズム
- ⑤低炭素化への取り組み
 - ・環境産業への支援
 - ・企業内省エネ対策の支援
 - ・中心市街地の低炭素化
- ⑥新産業クラスターの形成
 - ・航空宇宙産業クラスター
 - ・健康・医療産業クラスター
- ⑦農業の担い手への基幹的支援
 - ・優良農地の集積・確保
 - ・生産基盤の強化
 - ・農産物マーケティング活動支援
- ⑧持続可能な森林づくり
 - ・木材の域内利用と共同製材施設の建設
具体化
 - ・搬出した間伐材の利用推進
 - ・竹プロジェクト
- ⑨事業者連携による観光ブランド育成
 - ・情報発信力の強化
 - ・案内人・案内所の充実による「おもてなし」の向上
 - ・山岳エコツーリズムの育成
- ⑩地域生活インフラとしての商業・ビジネス支援
 - ・買い物弱者対策の検討
 - ・コミュニティビジネスの具体的取組支

援

- ・暮らしを支える事業モデルづくり

の10の重点戦略を編成した。

また、人材誘導プロジェクトとして、先人から「結い」の精神を学び、人と人を結ぶきっかけになることを願い、UターンとIターンを組み合わせた、結い（UI）ターンプロジェクトの取り組みがある。結いターンプロジェクトでは、人材誘導総合窓口の運営をするだけでなく、プロモーション戦略、インキュベーション戦略も展開している。

プロモーション戦略としては、インターネットやバンフレット・小冊子による情報発信、企業説明会・就職支援セミナーを実施する「地域まるごとPR」、大学、飯田職業安定協会、同窓会・ふるさと会と連携した「地域まるごとスクラム」、各担当がそれぞれの分野で人材誘導（求人情報収集・マッチング）や飯田ファンの拡大（体験教育旅行、ワーキングホリデー、エコツーリズム）を図る「地域セールスマン」といった取り組みが行われている。

「プロモーション戦略」の取り組みの1つであるワーキングホリデーは、「農業をしたくても手がかりがない、農業を真剣に学びたい都市住民」と、「農繁期に手間が足りない農家」を結び、お互いの足りないところを補い合う制度であり、参加者は作業農家で寝食の提供を受ける代わりに、労力を農家に提供するというシステムである。飯田市では平成10年よりこの取り組みを始め、つながりづくりを行っている。

飯田市のワーキングホリデーの参加者の男女比率は年間4：6程度であり、20歳代・30歳代の若い女性も多く、9月のシルバーウィークの時期には農業後継者の集まりである「かたつむりの会」と交流する「婚活ワーキング」も行われている。また、ワーキングホリデーの実施によって、グリーンツーリズムの本格的受け入れ施設にする農家も増えるなど、受

入農家の側にも変化が見られている。

インキュベーション戦略としては、「就職、起業、就農支援」（企業への人材供給、ハローワーク飯田と連携した職業紹介）、「住宅情報の提供」（宅建協会と連携した住宅情報提供、空き家情報の収集と提供）、「豊かなライフスタイル提案」（UI ターン者アフターケア（ネットワーク化とフォローアップ））といった取り組みが行われている。

結いターンプロジェクトでは今後も、

- ・地元企業の魅力を知ってもらう（情報発信）
- ・飯田暮らしの魅力発信（子育て、教育、医療）
- ・企業誘致、企業立地と雇用の拡大（産業振興）
- ・起業支援
- ・人材誘導を強化するネットワークの構築
- ・市民等と協働した UI ターン推進

といった取り組みを行い、産業界・経済界、行政、地域、学校・同窓会など南信州が連携した展開を目指している。

以上で述べた通り、持続可能な地域づくりのための「人材サイクル」の構築を実現させるために様々な取り組みが行われており、行政のみならず、飯田のまちづくりに関わりのある市民や地域組織、企業、団体などの多様な主体との協働が不可欠で、まちづくりの現場でさまざまな担い手が活躍している。その代表的な例として、平成 10 年にまちづくり会

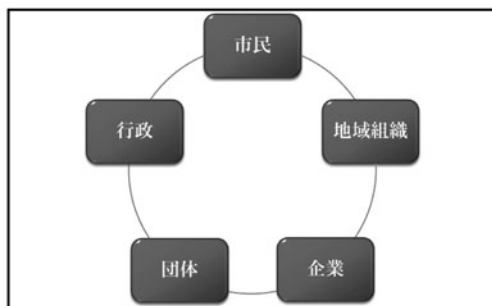


図2 飯田市の協働のまちづくりに関わる主体

社「株式会社飯田まちづくりカンパニー」を設立し、中心市街地活性化や再開発事業に取り組んでいることが挙げられる。

2-5 「飯田市の協働のまちづくり」の課題

前述の通り、飯田市では人のつながりやさまざまな主体間の協働を大切にしているが、飯田市には観光・文化・生活・産業・環境の面で見ると様々な課題を抱えているのも事実である。「飯田市の協働のまちづくり」の課題としては、大きく2つ挙げられる。

第1に「既存のつながりの再生」である。飯田に長く根付いている地区ごとのつながりの拠点であり、市民活動の場である公民館、旧来の町内会などの地域自治組織といった「既存のつながりが弱体化」しているため、「既存のつながりの再生」に取り組むことが必要であると考えられる。

第2に「新しいつながりの活性化」である。ギタークラブを通じた高校生と中年層のつながり、ごんべえ邑などでのワーキングホリデーを通じた農家と体験者のつながりなど、「新しいつながりの形成が発展途上」であるため、「新しいつながりの活性化」に取り組むことが必要であると考えられる。

本論文では、「飯田市の協働のまちづくり」の核である取り組みの1つである「いいだ人形劇フェスタ」の課題を明示し、その解決策を検討した上で、その可能性と実現に至る具体的方策を検証することにより、「飯田市の協働のまちづくり」の課題となっている隘路を切り開くことに資していきたい。

3. いいだ人形劇フェスタの現状と課題

3-1 いいだ人形劇フェスタの概要

いいだ人形劇フェスタは、昭和 54 (1979) 年に前身である「人形劇カーニバル飯田」としてスタートした。昭和 63 (1988) 年の第 10 回人形劇カーニバル飯田では、世界人形劇

フェスティバルを併せて開催し、世界的に人形劇のまちとして知られていたフランスのシャルルヴィルメジエール市と飯田市は友好都市締結を結び、日本の人形劇のまちとしての確実な歩みを始めた。平成10(1998)年に第20回を迎えた人形劇カーニバル飯田は、平成11(1999)年から市民主導をさらに進めた祭典として「人形劇フェスタいいだ」へと生まれ変わった。

いいだ人形劇フェスタはだれもが参加できる、日本最大の人形劇の祭典であり、海外の人形劇関係者や人形劇ファンにも知られている。毎年8月上旬に開催され、平成23年は市内32の本部会場と78の地区会場の計110会場で456公演が行われ、延べ参加者数は劇人約1800人、観劇者約4万人、ボランティアスタッフ約2000人であった。いいだ人形劇フェスタは、「みる、演じる、ささえる、わたしたちがつくるトライアングルステージ」を基本コンセプトにした市民主体の創造活動・自発活動・協働活動と、地域の公民館を中心に、市内全ての地域に出かけて上演する地域分散方式によって運営され、行政(飯田市、飯田市教育委員会)は事業費の一部負担と事務局業務を担っている。いいだ人形劇フェスタが目指すものは、

- ①人形劇をみたり、演じたり、ささえたりすることで心が豊かになること。
- ②人形劇が向上し、発展し、地域の文化がさらに高まり、まちが元気になること。
- ③いろいろな人たちと出会い、ふれあい、

学び合い、みんなが理解を深め合うことである。このことから、人形劇をみる人(市民や観光客などの観劇者)も、演じる人(劇人)も、ささえる人(ボランティアスタッフなど)も、みんなが参加証ワッペンを身に付けて参加する「参加証ワッペン方式」がとられている。この参加証ワッペンはみんながフェスタをつくるシンボルの役割を担うものである。

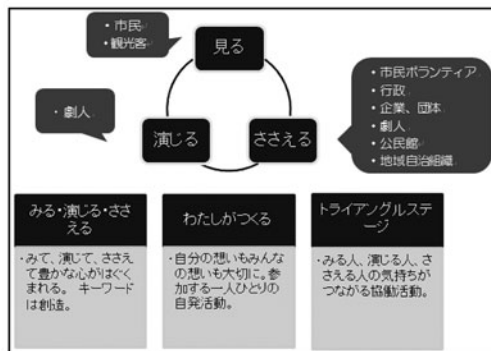


図3 いいだ人形劇フェスタのトライアングルステージ

いいだ人形劇フェスタの公演は本部公演、地区公演、広域公演、プレゼント公演の4つがある。人形劇の公演を観るためには、公演会場や公民館、市役所などで販売されている参加証ワッペン(700円)を購入する必要がある。ワッペンを提示することで全ての人形劇の観劇が可能である。本部公演は、実行委員会が企画運営する公演であり、ワッペンとは別に有料観劇券の購入が必要なもの(有料公演)もある。地区公演は、市内各地区の公民館が中心となる地区実行委員会が本部と連携して運営する公演であり、公民館や集会所、神社やお寺、保育園や学校等の生活の場が劇場となる。広域公演は、飯田市周辺の町村が、実行委員会と連携して企画運営する公演であり、人形劇が飯田から南信州全体に広がって上演される。プレゼント公演は、企業や団体、個人が公演経費を負担し、提供される公演であり、ワッペン提示だけでみることができる。人形劇の公演形態には、専門劇団の自主公演、プロ劇団が意欲的な作品を紹介するタイプの公演であり、ワッペンとは別に有料観劇券が必要であるタイプA、専門劇団の上演希望の作品から実行委員会が選考するタイプの公演であるタイプB、プロ・アマを問わず参加エントリーができるタイプの公演であるタイプCの3タイプがある。

3-2 いいだ人形劇フェスタの評価と課題

3-2-1 評価

いいだ人形劇フェスタの評価される点としては、市民が人形劇を楽しむことを核にしながら、中高生の初めての社会参加の場、市民たちの交流の場となっている点がある（いいだ人形劇フェスタ実行委員長 高松和子氏）。

また、主体的な参加をモットーとする市民が企画・運営を行い、行政がサポートする形となっており、市民有志の実行委員を中心に、中高生を含むサポートスタッフが運営に従事し、それぞれの立場や持ち場で主体的に活躍しふれあう姿からは、人づくりやまちづくりへの強いエネルギーが感じられる点である（飯田市長 牧野光朗氏）。

3-2-2 課題

いいだ人形劇フェスタの問題点としては、「飯田市の協働のまちづくり」の課題に関連して大きく2つの点が考えられる。「既存のつながりの再生」という面では、「地域分散方式にとって不可欠な公民館・地域自治組織が弱体化していること」が挙げられる。その原因として、

- ①集まりたくなる場でない
- ②取り組みが固定化している
- ③広報の方法に広がりがない

といったことが考えられる。いいだ人形劇フェスタ2010の結果報告によると、

- ・地区の人の人形劇フェスタへの理解、興味が少なく、地元の意識が低い。
- ・毎年固定した役員の人たちだけが携わるのではなく、様々な人たちに関わってもらいたい。
- ・初めてフェスタの運営に関わる人の中には、「やらされ感」を感じる人が少なからずいるので、それをみんなで作り上げるという意識に変え、主体的に関わってもらえるような働きかけを継続すること、大人も楽しめる人形劇を地区公演に

組み込む必要性がある。

- ・地区に住む中学生・高校生がもっとフェスタに関わってくれるような企画等考える必要性がある。
- ・毎年同じような取り組みになっているので、本部で新たな客層の獲得や市民への浸透に向けた試みを行ってほしい。

などの問題が挙げられている。また、広報いいだや信濃毎日新聞などの紙媒体、ラジオ、いいだ人形劇フェスタ公式サイトでの広報は行っているものの、この他のWebを活用した広報が少ない。以上のことから、「地域分散方式にとって不可欠な公民館・地域自治組織が弱体化していること」に対しては、

- ①皆が集まりたくなる場づくりをする
- ②魅力的な取り組みを提案する
- ③広報の仕方を工夫する

といったことが今後の課題に挙げられる。様々な層に公民館へ関心を持ってもらえる工夫がなければ参加者に偏りが生まれ、交流が減り、企画を知る機会が少なければ参加者数も伸びにくいと考える。

「新しいつながりの活性化」という面では、「みる・ささえる・演じる」のトライアングルがまだ強固ではないこと」が挙げられる。その原因として、

- ①事前に顔を合わせる機会が少ない
- ②適切な役割分担ができていない（特定の人に仕事が集中する）

といったことが考えられる。いいだ人形劇フェスタ2009及び、いいだ人形劇フェスタ2010の結果報告によると、

- ・部会スタッフとサポートスタッフの交流がない。若いスタッフが成長しているという印象は持ったが、公演部会員がサポートスタッフの様子を統括的にみられるようにしていったほうがよい。
- ・公演部会員の多くが上演劇団でもあるので、期間中に、スタッフの中心となって業務を執行し、スタッフを統括するとい

う事は難しい。

- ・劇団との打ち合わせ期間が短く苦勞した。
- ・スタッフの事前指導不足という声がある。

などの問題が挙げられている。以上のことから、「「みる・ささえる・演じる」のトライアングルがまだ強固ではないこと」に対しては、

- ①事前に顔を合わせる機会を作る
- ②適切な役割分担をする

といったことが今後の課題に挙げられる。特に、スタッフの交流機会を増やすことで、これまでふれあう機会の少なかった人と交流することができ、それによって新たなつながり作りができると考える。

3-3 いいだ人形劇フェスタの課題の解決策

本項では、いいだ人形劇フェスタの課題の解決策を検討し、それを通じて、「飯田市の協働のまちづくり」の課題である「既存のつながりの再生」、「新しいつながりの活性化」を解決することができるか否かを検証する。

「みんなが集まりたくなる場づくりをする」という課題に対する解決策としては、各公民館への休憩スペースの設置が挙げられる。現在ある休憩スペースは飯田市公民館と飯田文化会館の2ヶ所のみである。人形劇の観劇中はあまり話すことができないため、自由に話せる場を設け、丸テーブルとイスを設置してセルフサービスのお茶を飲めるような休憩スペースがあると良い。また、休憩スペースにその日に行われる公演のタイムテーブルを掲示しておく、「みる人」・「ささえる人」・「演じる人」の3者全てにわかりやすい。公民館は飯田に長く根付いている地区ごとのつながりの拠点であり、市民活動の場であるので、それぞれに休憩スペースを設けることにより、交流の場、機会が増え、各地区の「既存のつながりの再生」につながると考えられる。

「魅力的な取り組みを提案する」という課題

に対する解決策としては、地域ごとに人形劇作りをすることが挙げられる。地域ごとに劇人を集め、1つの人形劇を作り披露する（日替わりで公演を行う）ことによって、地域活性化に関心のある人を巻き込むことで方言や特産品のアピールなどの地域色を出し、飯田市外の地域と連携する機会ができ、人形劇の内容作りや練習の過程を通して、これまで交流のなかった劇人同士で交流を深め、両者にとって新しいつながりが生まれると考える。地域ごとに活動することにより、その地域の「既存のつながりの再生」につながり、これまで交流のなかった人同士の交流の機会もできるため、「新しいつながりの活性化」にもつながると考えられる。

「広報の方法に広がりがない」という課題に対する解決策としては、Webを利用した広報をすることが挙げられる。例えば、twitter, mixi, FacebookなどのSNSサイトを利用して、いいだ人形劇フェスタの様子をリアルタイムで発信したり、YouTubeなどの動画サイトでいいだ人形劇フェスタを紹介する公式チャンネルを作り、動画でいいだ人形劇フェスタの様子を発信したりすることが考えられる。

「事前に顔を合わせる機会を作る」という課題に対する解決策としては、スタッフの研修・交流の機会を増やすこと、「適切な役割分担をする」という課題に対する解決策としては、マネジメント効率を上げる仕組みを作ることが挙げられる。現状のスタッフ研修会は、いいだ人形劇フェスタの約1ヵ月前に全体の研修が1回あるだけである。各担当地区のスタッフで事前研修が十分に行われていれば当日の運営もスムーズになり、交流する余裕が生まれると考える。また、スタッフはさまざまな年齢層で構成することによって、さまざまな世代と交流する機会が生まれ、劇人はいいだ人形劇フェスタ前日に飯田入りしてスタッフとの事前交流会をすることで、新しい

つながりが生まれるので、結果として「新しいつながりの活性化」につながると考えられる。

4. 結 論

長野県飯田市における「まちづくりインターンシップ」では、「飯田市の協働のまちづくり」の核である取り組みの1つである「いいだ人形劇フェスタ」の問題点とその原因、今後の課題とその解決策を検討した上で、その可能性と実現に至る具体的方策を検証することにより、「飯田市の協働のまちづくり」の課題である「既存のつながりの再生」と「新しいつながりの活性化」の解決を図り、隘路を切り開くことに資することができるか否かを検証した。

「飯田市の協働のまちづくり」の課題の視点から、いいだ人形劇フェスタの問題点を見ると、「既存のつながりの再生」という面においては、①集まりたくなる場でない、②取り組みが固定化している、③広報の方法に広がりがないなどの原因により、「地域分散方式にとって不可欠な公民館・地域自治組織が弱体化していること」が挙げられる。このことから、①皆が集まりたくなる場づくりをすること、②魅力的な取り組みを提案すること、③広報の仕方を工夫することを今後の課題とし、その解決策として、休憩スペースの設置、地域ごとに人形劇作りを行うこと、Webを利用した広報などの展開が考えられる。

また、「新しいつながりの活性化」という面においては、事前に顔を合わせる機会が少ない、適切な役割分担ができていない（特定の人に仕事が集中する）などの原因により、「みる・ささえる・演じる」のトライアングルがまだ強固ではないことが問題点として挙げられる。このことから、事前に顔を合わせる機会を作ること、適切な役割分担をすることを今後の課題とし、その解決策として、スタッフの研修・交流の機会を増やすこと、マネジ

メント効率を上げる仕組みを作ることなどが考えられる。

以上のように、いいだ人形劇フェスタには多くの課題が存在しているが、その解決策の検討、実践を行い、いいだ人形劇フェスタのバージョンアップを図ることを通じて、「飯田市の協働のまちづくり」の課題である「既存のつながりの再生」、「新しいつながりの活性化」の実現に近づくと考える。

また、いいだ人形劇フェスタで試みた検証を活用することで、「結いターンプロジェクト」などの飯田市で行っている様々な事業についても、その問題点及び課題を明らかにし、解決策の検討を行う中で、「飯田市の協働のまちづくり」の課題である「既存のつながりの再生」、「新しいつながりの活性化」の解決への糸口を見出せると考える。

謝 辞

2011年度まちづくりインターンシップにおいて、貴重な経験をする機会を与えて頂いた法政大学大学院政策創造研究科 中嶋聞多教授、法政大学地域研究センター 宮木いっぺい特任教授に御礼申し上げます。

参考文献

- 安藤隆一編著(2010)『いいだ・南信州ガイドブック いいだ・南信州大好き』しんきん南信州地域研究所
- 飯田市(a)「経済自立度を高める多様な産業政策の推進について【地域経済活性化プログラム2011】—南信州フィールドスタディ—」南信州飯田フィールドスタディ2011 配布資料(飯田市役所)
- 飯田市(b)「—若者が故郷に帰ってこられる産業づくりをめざして— 地域経済活性化プログラム2011 産業連携の深化と地域産業の持続的成長への支援」南信州飯田フィールドスタディ2011 配布資料(飯田市役所)
- 飯田市企画部企画課「人も自然も輝く 文化経済

自立都市」南信州飯田フィールドスタディ2011
配布資料（飯田市役所）

飯田市水道環境部地球温暖化対策課「おひさまと
もりが育む低炭素で活力あふれる 環境モデ
ル都市・飯田～Green New Deal Policy in Iida
～」南信州飯田フィールドスタディ2011 配布
資料（飯田市役所）

飯田市結いターンキャリアデザイン室「人材誘導
のダイナミズム～結いターンプロジェクトの
取り組み～」南信州飯田フィールドスタディ
2011 配布資料（飯田市役所）

「いいだ人形劇フェスタ | みる, 演じる, ささえ
る. わたしがつくるトライアングルスステージ!
日本最大の人形劇の祭典（長野県飯田市）」
<http://www.iida-puppet.com/>（2013年1月
29日閲覧）

いいだ人形劇フェスタ実行委員会(2011)『いいだ
人形劇フェスタ2011 公式ガイドブック』い
いだ人形劇フェスタ実行委員会

いいだ人形劇フェスタ実行委員会「みる 演じる
ささえる わたしがつくるトライアングルス

ステージ いいだ人形劇フェスタ」南信州飯田
フィールドスタディ2011 配布資料（飯田市役
所）

高松和子（2011）「はるかなる時空を超えてつな
がってきた「いいだ人形劇フェスタ」」『社教情
報』(64). 11-14

「長野県 地図 都道府県別 | 観光楽地図 -
MapFan Web (マップファン)」
[http://www.mapfan.com/kankou/20/jmap.
html](http://www.mapfan.com/kankou/20/jmap.html)（2013年1月29日閲覧）

「長野県 飯田市 | 飯田市役所」[http://www.
city.iida.lg.jp/](http://www.city.iida.lg.jp/)（2013年1月29日閲覧）

牧野光朗「文化経済自立都市・飯田への挑戦」南
信州飯田フィールドスタディ2011 配布資料
（飯田市役所）

付記

本論文は、平成23年12月10日(土)に開催さ
れた「平成23年度まちづくりインターシップ報
告会」にて報告した内容に加筆・修正をし、ま
とめたものである。